

「第11回製薬協フォーラム」を開催

トピックス

「製薬協フォーラム」は、2010年12月1日、経団連会館において、国会議員、行政、関係団体、患者会、オピニオンリーダーおよび報道関係者など約450名の多数の招待客の出席のもと盛会裡に開催されました。当フォーラムは製薬協に関係する各界のリーダーと会員企業の代表者が一堂に会して意見交換を行うことを目的として毎年この時期に開催され、今年で11回目を迎えることができました。

第一部 講演会

これからの再生医療、難病治療などに大きな可能性が期待される「iPS細胞」の樹立を世界で初めて成功させた、京都大学iPS細胞研究所所長山中伸弥先生を招き、「iPS細胞研究の進展」というテーマで講演がありました。その中で、患者から樹立されたiPS細胞はES細胞と良く似た性質をもつことから、心筋梗塞、糖尿病、脊髄損傷、パーキンソン病などに対する細胞移植治療への有望な資源として注目されおり、研究が困難なさまざまな病気のメカニズムの解明や、新しい薬の探索、薬剤の有効性や副作用の評価にも役立つと期待されていると、最新の研究内容と展望について熱く語りました。

製薬協は、日本オリジンの新薬を「創り」、「育て」、患者さんにいち早く優れた新薬を「提供」し、

合わせて国際競争力のある産業として日本経済の一翼を「担う」ことが日本の製薬産業の目指すべき姿だと考えています。特に、難治性疾患に対する、未だ有効な治療法がないアンメットメディカルニーズに対する新薬の創出には、最優先で取り組んでいます。今回の講演が、それらに対する取り組みについてさらに理解を深め、またその中で産業として果たすべき役割について自覚を深める機会となったと思います。



京都大学iPS細胞研究所 所長
山中伸弥先生の講演



国際会議場の講演全景

「第11回製薬協フォー



厚生労働省を代表して挨拶する
藤村修厚生労働副大臣



多くの出席者で賑わう会場



国会議員と参加者との歓談風景



歓談

第二部 懇談会

長谷川会長の主催者挨拶に続き、厚生労働省を代表して藤村修厚生労働副大臣の来賓挨拶、庄田隆日本

製薬団体連合会会長の乾杯の発声で開宴となり、その後、多くの国会議員、および日本医師会、日本薬剤師会、患者会代表といった来賓の方から製薬産業に対する期待と激励の言葉を頂戴しました。

ラム」懇談会 会場風景



日薬連・庄田会長の
乾杯の発声により開宴



長谷川会長挨拶



風景



長谷川会長との歓談風景

満員の会場は参加者の熱気が溢れ懇談の輪が会場一杯にひろがりました。

終宴にあたっての手代木副会長挨拶の後も、名残を惜しむ歓談が続き大盛会のうちに第11回製薬協

フォーラムは無事終了することができました。

(製薬協事務局長 石井 誠司)